



リリース先：宮城県政記者会



THE CENTER FOR PSYCHOLOGICAL STUDIES OF DISASTER

災害心理研究所

国立大学法人 福島大学

平成 28 年 7 月 19 日

報道機関 各位

東北大学大学院薬学研究科  
福島大学 災害心理研究所

## <記者説明会開催のお知らせ>

### 原発災害が宮城県の母子に与えた心理的影響

東京電力福島第一原子力発電所事故後の国による住民の被ばく線量のモニタリングは福島県に限定されていたため、宮城県の子供は線量モニタリングの対象から外れていました。

東北大学大学院薬学研究科ラジオアイソトープ研究教育センターでは地域住民からの依頼及び自治体からの支援の要請に答えて、2011年9月1日より住民、特に15歳以下の子供を対象とし、小型積算バッジを用いた個人被ばく線量測定を行っております。住民とのやり取りの中で、時間経過とともに被ばく線量が低くなっても、放射線に対する不安はなかなか低くならない傾向があることがわかってきました。

そこで、原子力災害が人々の心理的健康に与えた影響について研究を行っている福島大学災害心理研究所との共同調査を2015年から宮城県においても開始しました。1回目（昨年）での調査により、南部地域における子どもや保護者の放射能への不安は高く、福島市と同レベルであることがわかりました。

2回目の今年、南部地域だけでなく仙台市にまで対象を拡大して調査を行った結果、母親の放射線不安と汚染のレベルには相関が見られることがあらたにわかりました。本研究は、宮城県における初の広域にわたる原発災害による心理的影響を調査したものです。

本件について、下記のとおり記者会見を開催致します。ご多用の折とは存じますが、ご参集いただきますようよろしくお願い申し上げます。ご取材を希望される場合は、次頁申込用紙をご送付いただきますようお願いいたします。

記

日時：2016年7月22日（金）午後2時から

場所：東北大学片平北門会館エスパス（別添地図をご参照ください。）

（仙台市青葉区片平二丁目1-1 東北大学片平キャンパス）

以上

問い合わせ先

東北大学大学院薬学研究科

ラジオアイソトープ研究教育センター

講師 吉田 浩子（よしだ ひろこ）

電話番号：022-795-6797